

水稻の生育状況と当面の対策

第 1 報
千葉県農林水産部
平成 23 年 6 月 2 日

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

目標茎数が確保されたら速やかに中干しを！

ふさおとめは幼穂形成に注意！

[生育概況]

○生育は順調で、茎数は確保されつつある！（「表 1」を参照）

今年は 4 月の天候は良好で、この時期に植えた稲は順調な生育を示しており、茎数は確保されつつあります。5 月上旬に植えた稲は、移植直後の強風や低温の影響を受けて、やや茎数の増加が遅れたものの、その後の気象が平年並みに推移して、生育は回復しつつあります。

表1 品種別の生育状況（6月1日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	並～やや早	並	並～やや多	並～やや濃
ふさこがね	4月20日頃	並～やや早	並	並	やや濃
コシヒカリ	4月20日頃	並～やや早	並	やや多	並～やや濃
	5月1日頃	並	並	やや少	並

※ 過去5か年（2006～2010年）の平均値との比較。

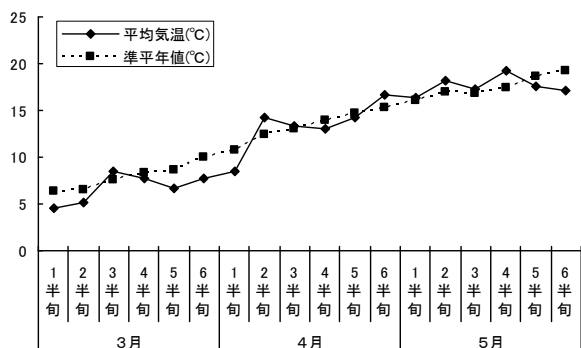


図1 平均気温の推移（佐倉市）

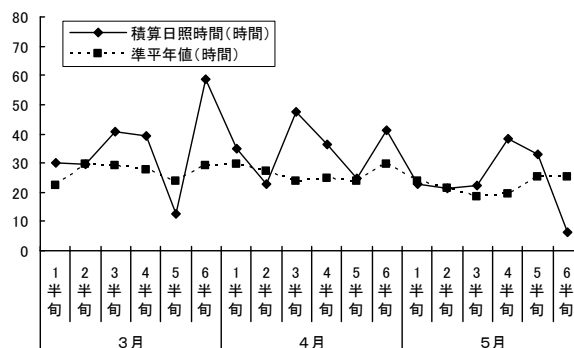


図2 積算日照時間の推移（佐倉市）

[これからの管理のポイント]

○茎数過多に要注意！

今年は田植え直後の天候は比較的良好で、早い田植え時期の水田ほど目標茎数は確保されています。葉色はやや濃い傾向を示しており、さらに分けつが旺盛になることが予想されます。茎数過多は倒伏や玄米品質低下の原因となりやすいので、ほ場をよく確認し、「表2」の目標茎数が確保されたら速やかに中干しを始めましょう。

※中干しのやり方と水管理

- ① 中干しは強すぎないよう、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前3週間・出穂後2週間は湛水管理
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	450本/m ² (25本/株)	450本/m ² (25本/株)	400本/m ² (22本/株)
ふさこがね	4月20日	—	360本/m ² (20本/株)	—
コシヒカリ	4月20日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)
	5月1日			

※ ()内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※ 極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

○今後の低温に注意！

今年はずでに5月27日に梅雨入りしています。気象庁が5月27日に発表した1カ月予報によると、向こう1カ月は平年に比べて曇りや雨の日が多い見込みです。この時期に、気温が19℃以下になると分けつが抑制され、生育も遅れます。

低温が予想されるときは、深水管理で水温を維持しましょう。

○「ふさおとめ」は幼穂を観察し、穂肥に備えましょう！

(「表3」「表4」を参照)

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月17日頃から幼穂形成期(幼穂長1mm)となる見込みです。穂肥は幼穂形成期から約1週間後の6月24日頃からが適期となります。

幼穂形成期の生育量の目安は表4のとおりです。

表3 品種別の幼穂形成期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測(月日)			
		県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日	6月21日～	6月19日～	6月19日～	6月17日～

※ 日平均気温に基づく発育段階予測結果

表4 幼穂形成期の好適な生育量

品種	茎数(本/m ²)			葉色 (カラスケール値)
	砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	520～570 (29～31本)		450～550 (25～30本)	4

※ ()内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

○葉色はさめても中間追肥は行わない！

穂肥適期前には葉色が低下しても、中間追肥は行わないようにしましょう。この時期の窒素の中間追肥は倒伏を招き、食味・品質・収量や、収穫時の作業性に悪影響を及ぼします。

○置き苗を処理しましょう！

補植用にほ場の片隅に置いてある苗はいもち病の発生源になります。速やかに廃棄しましょう。

○生産履歴を必ず記帳しましょう！

流通業界や消費者から、いつどのような肥料や農薬を使ったのか等の栽培履歴が分かる米が求められています。消費者に信頼される米づくりのために、必ず生産履歴を記帳しましょう。



図3 ふさこがね（4月20日植え）
6月2日（千葉市緑区刈田子）の様子

平年よりやや茎数が多く、葉色はやや濃く推移している

◆ 震災で田植えを遅くした稲の栽培管理 ◆

3月11日に発生した東日本大震災により、パイプラインの破損による用水供給の遅れやほ場の液状化、海水の流入などの影響を受け、田植えが遅くなっている地域があります。

今年の「水稻の生育状況と当面の対策」では、これら遅植えの稲の栽培管理についても、情報を定期的に発信していく予定です。

まず、第1報では、遅植え稲のこれからの全体的な管理のポイントについて記載します。

[これからの遅植え稲の栽培管理の留意点]

- ①現在、育苗中の苗については、徒長するので、ハウスは雨よけ程度とし十分換気する。
- ②茎数確保が困難になり、収量減少のおそれがあるので「栽植密度は55～60株/坪」「1株植付本数は5本以上」にし、疎植は避ける。
- ③多施肥では茎数の確保ができず、かえって倒伏の可能性が増すので注意する。一発肥料の使用は避ける。
- ④発生する病害虫が今までと異なるので、ほ場を十分に観察して適期の防除を行う（特に、梅雨期の「いもち病」や、害虫の「イネツトムシ」に注意）。また、カドミウムの吸収を抑制するため、出穂3週間前～出穂2週間後まで湛水管理とすること。

田植えの時期と想定される生育ステージの関係は次のとおりです。

(香取市、コシヒカリの場合)

移植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期
4月下旬～5月上旬	7月第1半旬	7月第6半旬	9月第1半旬
5月中旬	7月第2半旬	8月第1半旬	9月第2半旬
5月下旬	7月第3半旬	8月第2半旬	9月第3半旬
6月上旬	7月第4半旬	8月第3半旬	9月第5半旬
6月中旬	7月第5半旬	8月第4半旬	9月第6半旬

※生育ステージの情報と今後の管理について、第2報以降でも引き続きお伝えします。

[遅植えコシヒカリの栽培暦]

次頁に、遅植えコシヒカリの栽培暦を添付しましたので、参考にしてください。

海水の流入した水田の水管理

津波の影響で海水の流入した水田については、中干し等の落水をすると、塩害発生のおそれがありますので、中干しは極力避け、湛水管理に努めましょう。

遅植え「コシヒカリ」の栽培暦（震災対策版）

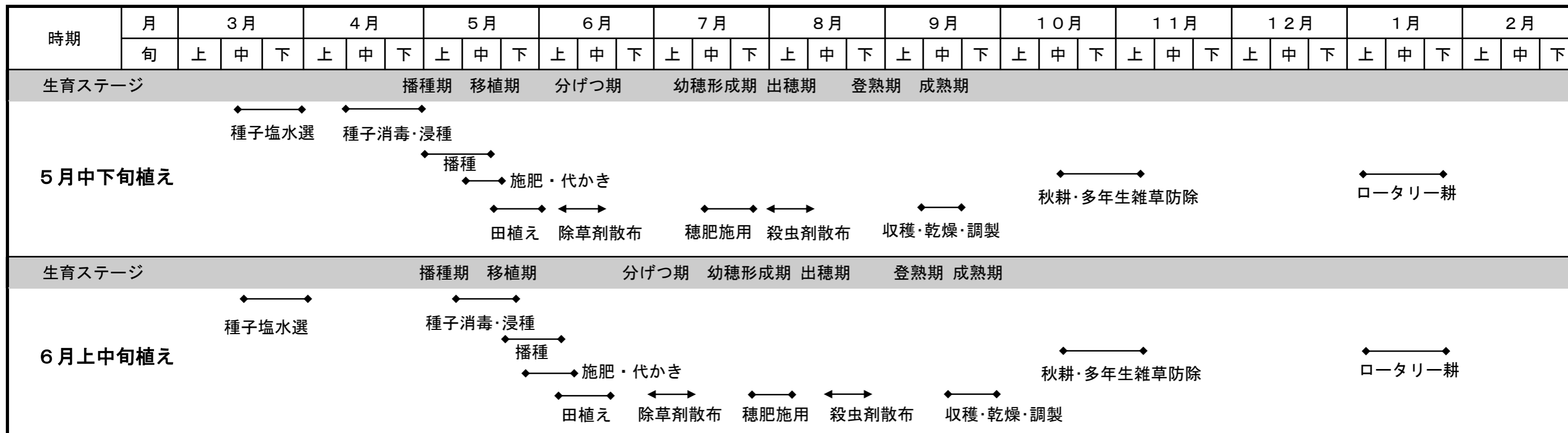
千葉県・千葉県農林水産技術会議
平成23年4月

★用水の確保

- 農業用水を5月上旬から9月中旬まで確保できる地区、ほ場を選定する。
- 登熟期間中のかんがい水の不足は、著しい減収や品質低下につながるので、「最低でも出穂後25日間の用水確保」を図る。

★移植時及び移植の考え方

- 5月20日移植の場合の成熟期は9月15日ごろとなる(千葉市)。
- 6月10日移植の場合の成熟期は9月30日ごろとなる(千葉市)。
- 疎植では減収しやすくなり、品質が低下するので、「栽植密度は55株/坪以上」にする。また、穂数確保のため6月植えでは、「1株植付本数は5本以上」にする。



収量と収量構成要素の目標値

移植時期	目標収量	穂数	1穂粒数	m ² 当たり粒数	登熟歩合	千粒重
	(kg/10a)	(本/m ²)	(粒)	(粒)	(%)	(g)
5月中下旬	510~540	280~320	90~100	28,000~30,000	85	21.5
6月上中旬	330~420			25,000~30,000	70	20.0

施肥量の目安（壤土・湿田の場合 10aあたり）

移植時期	窒素		リン酸	加里	
	基肥	穂肥	基肥	基肥	穂肥
5月中下旬	1.5kg	3kg	8~11kg	7kg	3kg
6月上中旬	0~1kg	3kg	—	—	3kg

★は種・育苗の注意点

- 稚苗移植の場合、田植え予定日の14~18日前には種する。
- 1度浸種した種籾は、発芽率を調べては種する。低い場合は、は種量を増やす。
- 高温期の育苗なので、育苗ハウスの温度管理に注意する。30℃以上の高温は、細菌性病害の発病を助長する。
- 中苗（3.5~4葉）の出穂期は、2~4日早くなるが、穂数は少なくなる。

★施肥の考え方

- 生育期の気温が高いため、慣行に比べて移植期から幼穂形成期までの期間が短くなる。このため、全量一発肥料の使用は避ける。
- 表の施肥量を目安にして基肥を施用し、葉色から穂肥施用の有無・時期・量等を判断する。
- 砂土の場合は、基肥窒素量を表の値より1kg程度上乘せする。

★雑草防除

- ほ場の発生草種、草種の葉齢に応じた適切な除草剤を使用する。
- シメトリンやジメタメトリンを含む除草剤は高温条件で薬害が発生する恐れがあるので水深を保って散布する(特に砂質土壌)。
- 田植え同時散布をする場合は「田植同時散布」の登録のある除草剤を使用する。
- 除草剤散布後7日間は止水管理とし、排水及び入水はしない。

★病虫害防除

- 分けつ盛期が梅雨期に当たるため、いもち病の発生が危惧される。多肥による過繁茂を避けるとともに、ほ場を十分に観察して適期防除を図る。
- 周りのほ場が稲刈りされるとカメムシ等が集まり、急に被害が出ることがあるのでほ場を十分に観察して適期防除を図る。